流れの可視化札幌講演会の開催に当たって

流れの可視化学会会長 田古里 哲 夫

Message of the President at the Opening of Sapporo Meeting

Tetsuo TAGORI

流れの可視化札幌講演会の開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

流れの可視化講演会が東京以外の地域で開催されるのは今回で4回目になります。第1回は昭和57年長崎、第2回は昭和59年仙台、第3回は昭和60年大阪で開かれました。昨年は流れの可視化国際シンポジウムがありましたので、1年開催を遅らせて今回になりました。第1回流れの可視化シンポジウムが開催されたのは、昭和48年のことでした。今年は流れの可視化シンポジウム15周年に当たります。この記念すべき15周年に念願の北海道で講演会を開催させていただくことになり真に慶賀の至りと存じます。

東京以外の地で講演会を開催する目的は、会員の研究発表の機会を増すだけではなく、日頃流れの可視化に関心を持たれながら出席できなかった方々や、流れの可視化に若干疎遠であられた方々に出席していただく機会を作り、ご理解とご関心を深めていただき、流れの可視化の進歩発展を促進することにあります。15周年の重要事業に本学会の社団法人化があります。現在申請手続きを進めていますが、本講演会により流れの可視化に対する理解と関心が一層高まり、流れの可視化の進歩、利用の拡大、学術・産業への寄与の発展、会員増強などの面で法人化に大きな援助になることを願っています。

幸いにして本講演会には約40編という多くの研究成果が寄せられ、ご同慶の至りに存じます。さらに、特別講演として北海道大学低温科学研究所青田昌秋教授の「オホーツク海と流氷」と東海大学工学部中山泰喜教授の「流れの可視化の現状と将来展望」のお話を拜聴できますことは、錦上添花を添えるもので本講演会を一層充実させるものであります。また、関連機器の展示と、昨年東京で開催いたしました流れの可視化展「見えない流れの世界展」で展示しました写真パネルの展示も行われます。ご出席の方々にはきっとご参考にしていただけるものと思います。さらに第3日には見学会が予定されています。札幌市青少年科学館、北海道開拓の村の見学は本学会の活動をより活発にするためにも有意義なことと存じます。

時間の許す限り会員の皆様の活発なご討論を得まして、本講演会を一層実り多いものと思いたしますとともに、ロビーや懇親会などでのご歓談を通じて懇親の実を一層あげられるよう念願するものであります。

終わりに、本講演会の開催に多大のご尽力をいただきました実行委員長室蘭工業大学奥田教海教授をはじめ実行委員会および関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

表紙説明

静水中を一定速度で進行する円柱の後流を電解沈殿法で可視化したもので、白い筋は統合流脈である。円柱直径 10mm, 速度 15mm/s で、レイノルズ数は 140, 円柱後流はこの程度のレイノルズ数のときに最も美しいカルマン渦列を形成する。カルマン渦列は 3 次元の構造をもち、絶えず不規則に揺れており、速度変動のパワースペクトルは広い周波数範囲をもつ連続スペクトル成分を有する。この不規則性の発生機構は現在までのところ明らかでない。

使用水槽：長さ×幅×深さ＝10×0.5×0.5m

照 明：300Wスライドプロジェクタ 2 台

フィルム：ASA 200, パンドール10分現像

電解電圧：5 V

レ ン ズ：135mm, F3.5

露 出：F3.5, 1/30s

(九州大学教授 種子田 定俊)